# 島本町立歴史文化資料館 館報第４号

平成24年　8月

島本町立歴史文化資料館

# はじめに

平成20年4月に島本町立歴史文化資料館がオープンして4年の歳月が流れました。

昭和16年、桜井駅跡記念館「麗天館」として発足した伝統的な日本建築の現姿は、当時の面影そのままに、空の青、木々の緑に優しくとけ込んでいます。

大阪に位置しながら京文化にほどよい距離にある島本の地は、古代より人々の脈々とした生活の息吹が波打ち、時代時代の生き証人としての遺構や記述が多く残されているところであります。

特に、道の文化としての西国街道、川の文化としての淀川にまつわる数々の歴史の足跡が実感できるオアシスでもあります。

この貴重な財産を次世代へ繋げていく町の使命として、有形文化財、記念物、民俗文化財の調査を進めているところです。

その一環として島本町文化財保護条例を施行し、平成21年度より島本町指定文化財の指定を行っています。

平成24年4月には勝幡寺「薬師如来立像」の指定に至り、指定文化財は先の水無瀬神宮「水無瀬駒 関連資料」、若山神社「神像(伝 聖徳太子七歳像)」、宝城庵「薬師如来立像」と合わせ、4つとなりました。

また、継続した取り組みとして町内遺跡の発掘調査も実施し、「平成23年度広瀬遺跡発掘調査」では、島本町で初めて、近世西国街道の遺構が良好な状態で発見されるという成果をあげることもできました。

このほか、舞台を持つ館の特性を活かした資料館コンサートや歴史・伝統文化にまつわる様々なジャンルの講演会も催し、好評を得たと自負しております。

常設展示にとどまることなく、「町指定文化財速報展」、「発掘調査速報展」、「水無瀬駒関連資料展」、「郷土カルタ原画展」、「むかしのくらしと農家のしごと展」等の企画展にも力を注ぎ、地域に根ざした運営を進めてまいりました。

運営を進めるに当たって日々痛感するのが様々な立場の皆様のご協力と、厚い熱意でした。本当にありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。

今後とも、過去の点と点を結び、歴史文化としての命を与え、現代に繋ぐ糸としての役割にお力をお貸しいただきますよう心からお願いを申しあげます。

平成24年8月

島本町立歴史文化資料館
館　長　北野　弘範

# 目　　次

はじめに　・・・

## 平成23年度　秋の企画展
## 「水無瀬駒の時代を生きた人びと」

### 講演「江戸時代の将棋駒」
### －高槻城三の丸跡の出土駒－

平成23年11月26日（土）
高槻市教育委員会文化財課
しろあと歴史館長　鐘ヶ江　一朗　氏

みなさんこんにちは。高槻市教育委員会の文化財課長をしております、鐘ヶ江と申します。しろあと歴史館の館長もしております。

さて、今日お話いたしますのは「高槻城三の丸跡から出土しました江戸時代の将棋の駒」これがテーマです。

そもそも高槻にお城があったということは皆さんご存知だと思いますが、現在、地上に高槻城の遺構はほとんどありません。城内、三の丸の一画に野見神社があって、今回ご紹介するのはこの野見神社のすぐ北側にあたる一角を発掘した、そのときのお話です。

本題の将棋の駒は、この野見神社に一番近いところから見つかりました。2500 平米掘って、井戸が61基出てきました。将棋の駒が出てきた井戸は、井戸41と呼んでおります。これは井戸枠を全部抜いて、そのあとの穴に、いわゆるゴミというんでしょうか、日常用具、不用品やこわれたものをまとめて捨てていた、こういう井戸跡です。白っぽい陶磁器や赤っぽい土師皿、いわゆる灯明皿の類です。これらがざっと50点くらいこの井戸から出たわけです。上層に土器が捨ててあって、それらを取り上げつつ掘り下げていきますと、深い井戸の底に近いほうに木製品がまとまって出てきました。

で、目をひいたのは、金箔を貼り付けた板が出てきました。その金箔でありますとか彫刻刀みたいなものでありますとか、あるいは刀の柄、それから木箱、そして付け札、これがたくさん出てきました。こういう付け札類に混じって、薄板を竹で留めて作った木箱が捨ててありました。長年、土と一緒に埋まっていたものですから、部分的に変色したり、どうも鉛のような金属がへばりついたような痕もありました。ざっと200年以上経ったものですが、こういったものが見つかっています。そして、土を篩にかけて洗っていくと将棋の駒が出てきました。

発見しました将棋の駒、これは全部で26点。このうち墨で、あるいは漆で書いてある書き駒が26点のうちの２点、残りは全部、彫刻刀で彫り込んだ後に墨を入れてあります。そういうものでした。形や大きさは、今の将棋とほとんど一緒です。ただ、この中の「王将」とか「金将」とか、こういったものを見ていただきますと、いびつな断面形をしております。これは土に埋まっていた影響もあるのかもしれませんが、非常に手作りのにおいがする駒が混じっています。字体も結構ばらつきがあります。特に書き駒は、漆で書いてあって、漆に光が反射して白く見えるんですが、黒漆で「と金」ですね。「歩」と書いたものがあります。もう１点は墨で書いてあるということで、

どうもお店で買い求めたものとは思えない、使っている間になくした駒を自分で作ったり、あるいはよそのセットから持ち込んだり、こんなことがあったんじゃないかなということを思わせる 26 枚です。特に最初申し上げた「王将」や「金将」などの成らない駒については、字が刻んである方が反っていたりします。ですから、きちんと五角形の駒にする手間を省いたといいますか、手元にあった木材を利用して作ったと思わせます。さらに、いかにも流通していると思わせるしっかりした将棋駒に混じって、親指の爪ぐらいの大きさの薄板が最初２枚ほど出てきました。駒の形はしているので、これも将棋駒の一つかと思って、丁寧に筆で泥を落としていきますと、墨で「歩」、あるいは最初は何と読むかわかりませんでしたが、とにかく墨書したものが出てきました。その中には、赤い点や線を引いてあるものがありました。写真ではちょっとわかりにくくて恐縮ですが、図面では、字に重なる形で、線や点を表しています。発掘した後で、これが中将棋の駒だったということを知って、それから駒の動きなどを教えてもらうと、２駒３駒進める、あるいは突き当りまで進めるような駒はラインが引いてあって、斜めに一つ動ける、それは点で印してあります。サイズが、親指の爪ぐらいの小さいものです。しかも、弁当の折箱みたいな薄い木材を使って、小刀で削り出して作っています。これはどう見ても自作品で、一生懸命探しましたが、全部で 21 点、これきりです。その 21 点の中で、中将棋の駒の名称の推測がついたのが 10 点、あとの 11 点については、わずかに朱点は残ってはいたものの、墨書は残っていなかったので、駒の名称を特定するには至っていない状況です。

普通、駒の進め方を駒自体に書くということはないと思うのですが、おそらく今ほどではないにしても、江戸時代はすでに中将棋が指されることが少なかったです。そこで、将棋本などを参考にしながら、中将棋の初心者同士が指すために作ったんじゃないのかなと思っています。みなさんご承知のように、中将棋というのは敵味方合わせて 92 枚、マス目は 12×12、将棋盤自体も特製のものがいるわけですが、駒のサイズからしますと、碁盤を使って中将棋したのかなと、碁盤のマス目の大きさに合わせて、小さい駒を作ったのかなと思っております。碁盤は出ていませんが、碁石は出土していますので、あながち無理な想像でもないと感じております。

江戸時代は、もっぱら今の将棋が指されていて、中将棋、さらには大将棋、大々将棋というバリエーションがあるわけですが、そういった時間がかかる遊びは、ほとんどなされてなかったです。僧侶や武士の、しかも一部の人々が、中将棋を指していた状況であったと考えられます。この中将棋と将棋の駒が発見された場所は、武家屋敷のエリアですので、お武家さんが勤務の合間に、中将棋の駒を自作してまで遊んでいたのかなというふうに想像もふくらみます。

このときの発掘では、人々の精神生活や年中行事を偲ばせる遺品、羽子板や人形、釉のかかった鶴、はと笛、ベーゴマ、安産のお守りの犬の土人形なども発見されております。

これら高槻城の発掘成果一端は、しろあと歴史館で紹介しておりますので、ぜひともお越しいただき、ご覧下さいますようお願い申しあげて、結びといたします。本日はどうもありがとうございました。

## 展示解説

「将棊馬日記について」

平成 23 年 11 月 26 日(土)
大阪大学大学院博士後期課程
正岡　義朗　氏

大阪大学の正岡義朗と申します。普段は高校の教師をしながら、大学院で研究を続けております。研究テーマは豊臣政権の政治機構で五大老・五奉行の成立過程について研究をしております。豊臣秀吉の時代を研究しているということで島本町の方から『将棊馬日記』の調査を依頼されまして、今回お話させていただくことになりました。今日は、『将棊馬日記』とそれを書いたといわれている水無瀬兼成という人物の活動を説明いたしまして、その後に徳川家康と将棋の関係についてお話していきたいと思います。

まず、この『将棊馬日記』という史料ですが、天正 18（1590）年から慶長 7（1602）年の将棋駒の制作記録になります。内容は、駒の種類、それから譲渡先が記されています。譲渡先というのが、公家・武家・僧・庶民、非常に幅広く渡されていまして、特に全種類の将棋駒を入手した豊臣秀次と、50 組以上の駒を入手した徳川家康、この 2 人が注目される人物ということになります。

この水無瀬兼成という人物なんですが、水無瀬駒を制作した、つまり駒の文字を書いた人ということで知られています。

『将棊馬日記』という史料は、人物名が列挙されている史料になります。出てくる人物は非常に有名な方ばかりで、見ていても飽きないおもしろい史料なのですが、註記がほとんどありません。なのでそれを調べるために、この時代に活動していた他の公家の日記を見てみようと、今回は『言経卿記』という史料を調べてみました。『言経卿記』というのは、山科言経という公家が書いた日記になります。言経自身も徳川家康や豊臣秀次から扶持を受けているということが知られています。

この『言経卿記』から、天正 13（1585）年には兼成と書のやり取りをしているという記事がありまして、この頃には既に言経と兼成は何らかの交流があったということがわかります。そして文禄 2（1593）年 9 月 6 日条の記事には、兼成が家康に扶持を望むということで言経に相談をしているというようなことが書いてあります。この 4 日後の 9 月 10 日条を見ていきますと、家康のところに行きまして、そこで兼成と言経が会っている。この文禄 2 年の 9 月頃に兼成と家康の間に何らかの関係が出来ていることが明らかになります。このあとから『言経卿記』に兼成の名前が頻繁にでてくるようになります。

『将棊馬日記』によりますと、豊臣秀次は小将棋、中将棋、大将棋、大々将棋、摩訶大将棋の全種類の将棋の駒を得ている唯一の人物になります。他にも兼成に命じて、『象戯圖』を写させているということで、将棋や兼成と非常に関係の深い人物です。『言経卿記』からは秀次と言経の関係は非常に良好だったと思われます。実際に会っている回数だけでも相当数あります。秀次関係の記

事の中には、囲碁・将棋を行う様子も多くみられまして、秀次の愛好ぶりがよくわかります。ただ残念ながら秀次と兼成の接点というのは、この『言経卿記』からはわかりませんでした。少なくとも文禄元年に『象戯圖』を写させた段階では「将棋駒と言えば水無瀬兼成」というイメージが出来上がっていたことは確かだろうと思っています。このように将棋に関して非常に理解があった秀次に対して、叔父の秀吉はどうやら囲碁派だったようです。なので、『将棊馬日記』には秀吉は現れてきません。しかし秀吉の次の天下人になる家康は囲碁・将棋ともに愛好していたことがわかっています。

次に家康と将棋の関係について見ていきます。『将棊馬日記』によりますと、文禄 3（1594）年から家康は駒を入手しています。一度の入手数も、家康は 5 組くらい一気に頼んだりと異例の多さになります。駒の合計も 50 組以上と圧倒的に多いです。つまり家康は水無瀬駒の最大の所持者であったわけです。

家康ほどのネームバリューがある方がパーティーのようなものを開きますと、多いときには 30 人ほどが集まったりします。その中に碁打ちや将棋指しが呼ばれている事例が『言経卿記』には多く記されています。徳川家のいわば公式行事として行なわれるような集まりの中で、囲碁・将棋というのが盛んに行なわれていたということがわかるわけです。ここで、家康が手に入れた 50 組以上の将棋の駒の使い道を考えてみたいと思います。『徳川家康文書の研究』という家康がやり取りした書状を網羅している史料集があるのですが、そこに将棋の駒というのは一切出てきません。また、大変立派な水無瀬駒を家康からもらったら、もらった大名などは大切に保管していたということが自然に考えられるんですけれども、水無瀬駒の現存例がその割にはあまりに少ないんですね。700 組以上造ってあったんですが、実際残っているのは 10 組程度しかないことは不自然だと思われます。なので、現段階では、家康主催の将棋会で用いるために、家康は将棋駒をたくさん注文したのではないかと考えられます。

最後になりますが、碁打ち・将棋指しについて見ていきます。囲碁や将棋を生業とするような専門家が生まれたのは、信長、秀吉の時代と言われています。『将棊馬日記』の頃には碁打ち・将棋指しが急増していきまして、文禄年間には彼ら専門家を呼び寄せて行なう囲碁・将棋会が盛んに行なわれていたということが『言経卿記』などからわかってきます。この囲碁・将棋会の最大の主催者が徳川家康だったわけです。

以上見てきたように、この囲碁・将棋というのは、公家・武士に共通した数少ない趣味だったのではないかと言えると思います。家康は囲碁・将棋会を開くことで、京都での人脈を拡大していき、自らの政治的影響力を強めていったと考えられます。この将棋会を開く場合は、身分の高い公家も集まってくるので、使う駒もそれなりに格式のある立派なものが必要とされてきます。つまり家康主催の将棋会を支えたのが水無瀬兼成の作成した水無瀬駒であったと考えられるわけです。こうして、将棋趣味を深めていった家康は、江戸幕府を開くと、将棋指しの保護を行なって、江戸時代に将棋はさらに発展していきます。以上で、私の話は終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。

## 展示

### 常設展　「ひと・もの・みち」

島本町は、大阪府と京都府の境に位置し、桂川、宇治川、木津川の三川合流の地にあります。
町の中心を西国街道が通り、古来水陸の交通の要衝として栄えてきました。
その街道沿いに当資料館があります。
当資料館では、このような地理的背景を中心に「島本と西国街道 － ひと もの みち －」をテーマに展示をすすめてまいります。

恒例の七夕飾りが、町内の保育所・幼稚園・小学校より児童が参加して行われました。短冊にはかわいい願い事が書かれ来館者を微笑ませています。

玄関で「かん太」がお出迎えいたします。
島本町の豊かな自然と文化、そして歴史をお楽しみください。

開館時間　午前 9 時 30 分～午後 5 時
休 館 日　毎週月曜日（祝日の場合は翌日休館）
　　12 月 29 日～1 月 3 日
　　特別展準備期間

## 町指定文化財　「宝城庵 薬師如来立像」・「将棊馬日記」速報展

**展示期間：平成23年4月26日（火）～平成23年6月5日（日）**

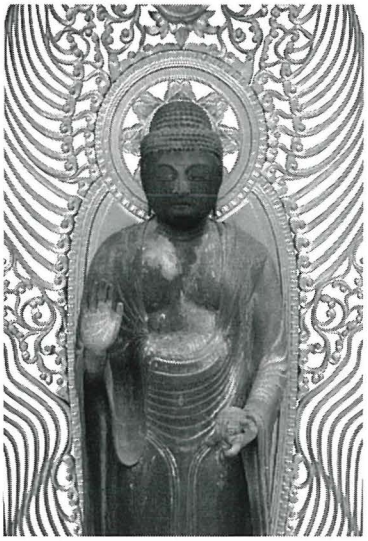
平成20年に文化財保護条例が施行され、町に残る貴重な文化財の保護に努めています。

今回は、町指定文化財第1号の追加指定「将棊馬日記」、第3号「宝城庵 薬師如来立像」を写真展示しました。

町指定文化財第1号の追加指定
「将棊馬日記」

「将棊馬日記」は安土桃山時代の公家、水無瀬兼成（1514～1602）が、依頼主に応じて制作した将棋駒の数や譲渡先を記録した文書です。日記には、当時の天皇や公家、有名武将などが登場しますが、中には、僧侶や商人、大工棟梁たちの名前も見られ、依頼主が身分的・地域的に広範囲に渡っていたことがうかがわれます。この資料は「水無瀬駒」の制作の背景を理解するためにも、また、当時の諸階級の人々の将棋との関係を見るためにも貴重なものです。

「宝城庵 薬師如来立像」は桜井地区にある宝城庵の本尊で、本町の平安時代の数少ない秀作です。薬壷を手と共彫りしており、この時代の薬壷を表す数少ない例として貴重なものです。また、保存状態が良好であることも賞されます。



文化財第3号「宝城庵 薬師如来立像」

## ミニ企画展

**「島本の水をもとめて」**

**展示期間：平成23年9月28日（水）～平成23年10月19日（水）**

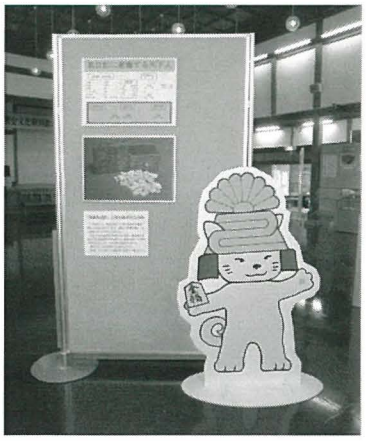
島本町は、自然豊かな地形や風土により育まれる水資源や交通の要衝として栄えてきました。大阪府で唯一環境省の名水百選に選ばれ、「おいしい水」の町としても有名です。

これらの条件から、大正期から工場も作られ、産業も発達しました。そのなかでも、おいしい水を求めて、島本の地に日本初の国産ウィスキー工場となる「山崎蒸溜所」を建設したエピソードや写真資料、ウイスキー作りに必要な樽を展示し、町の水や産業について紹介しました。

## 秋の企画展「水無瀬駒の時代を生きた人びと」

**展示期間：平成23年10月22日（土）～平成23年12月11日（日）**

講演会日時　：　11月26日（土）　午後2時～
講 演 会 名　：　「江戸時代の将棋駒」－高槻城三の丸跡の出土駒－
高槻しろあと歴史館長　　鐘ヶ江一朗氏
展 示 解 説　：　「将棊馬日記について」
大阪大学大学院博士後期課程　　正岡 義朗氏



町指定実物展示：「将棊馬日記」「水無瀬駒・中将棋」
11月26日（土）・27日（日）

町の指定文化財「水無瀬駒 関連資料」を考える上で、非常に重要な史料である「将棊馬日記」を中心に「中将棋駒」についての展示を行いました。展示では、一般にあまり知られていない「中将棋」の解説に加え、日記全62頁の中10頁を翻刻し、解説をつけました。展示開催期間は、来館者に本将棋や中将棋がいつでも体験できるよう対局コーナーを設け、学校帰りの小学生が資料館を訪れました。

講演会では、隣市である高槻市の高槻城三の丸跡から出土した中将棋駒の出土状況について興味深いお話をいただき、その後で、織豊期に詳しい正岡氏のよる「将棊馬日記」の詳しい解説がありました。戦国時代を生きた天皇や公家、武将から庶民にいたる人たちの様々なつながりを「水無瀬駒」を通じて考えることができました。

また、講演会の前日と当日には、「将棊馬日記」「水無瀬駒・中将棋」の実物展示を行い、資料館を訪れた多くの「水無瀬駒」愛好家たちを魅了しました。

## 新春企画展

### 「しまもとの郷土かるた」原画展

**展示期間：平成24年1月4日（水）～平成24年1月29日（日）**

恒例の「しまもとの郷土かるた」原画展は、平成23年度で4回目となりました。企画展では、「な」～「の」計5枚の絵札を展示しました。

「水無瀬駒」をはじめ島本の文化財や自然を、繊細で美しく表現された切絵で紹介しました。

【過去の企画展】

| 年　度 | 絵　　札 | 枚　数 |
|---|---|---|
| 平成20年度 | 「い」、「ろ」、「は」、「に」、「ほ」、「へ」、「と」 | 計7枚 |
| 平成21年度 | 「ち」、「り」、「ぬ」、「る」、「お」、「わ」、「か」 | 計7枚 |
| 平成22年度 | 「よ」、「た」、「れ」、「そ」、「つ」、「ね」 | 計6枚 |

## 民具・農具展

### 「むかしのくらしと農家のしごと」

**展示期間：平成24年2月1日（水）～平成24年3月4日（日）**

毎年この季節に、昔使われていた民具や農具を展示し、むかしのくらしと農家のしごとについて紹介しています。

今年度も多くの方に民具を体験していただくため、「縄ない機」・「唐箕」・「石臼」・「足踏み式ミシン」の体験コーナーを設けました。社会科の体験学習に訪れた小学生のなかには、一生懸命足踏み式ミシンに挑戦したり、友達どうしで力を合わせて、縄ない機でワラを編みながら、昔の人たちのくらしを体験していました。また、来館された方も、昔を懐かしみながら見学しておられました。

昔のくらしの智恵や伝統に触れ、先人たちの偉大さを感じていただけた展示になったのではないでしょうか。

## 事業報告

### 企画展・催物一覧

| 日時・期間 | 企画展 |
|---|---|
| 4月26日(火)～ 6月 5日(日) | 町指定文化財「宝城庵 薬師如来立像」・「将棊馬日記」速報展 |
| 9月28日(水)～10月19日(水) | ミニ企画展「島本の水をもとめて」 |
| 10月22日(土)～12月11日(日) | 秋の企画展「水無瀬駒の時代を生きた人びと」 |
| 11月26日(土)～11月27日(日) | 町指定文化財実物展示「将棊馬日記」「水無瀬駒・中将棋」 |
| 1月 4日(水)～ 1月29日(日) | 新春企画展「しまもとの郷土かるた」原画展 |
| 2月 1日(水)～ 3月 4日(日) | 民具・農具展「むかしのくらしと農家のしごと」 |

| 日時・期間 | 催 物 |
|---|---|
| 4月30日(土) | 第21回コンサート「吉久夏子＆古園恭美 ピアノ連弾の愉しみ」 |
| 5月22日(火) | 第22回コンサート「tomoco. K ピアノ弾き語りコンサート」 |
| 6月12日(日) | 第23回コンサート「川合亜美 ピアノリサイタル」 |
| 9月17日(土) | 第24回コンサート「楽しい秋の名曲ラブリーコンサート」 |
| 11月26日(土) | 講演会「江戸時代の将棋駒」<br>ー高槻城三の丸跡の出土駒ー 鐘ヶ江 一朗 氏<br>展示解説「将棊馬日記について」 正岡 義朗 氏 |
| 11月27日(日) | 中将棋教室(1回目) |
| 12月 4日(火) | 中将棋教室(2回目) |
| 12月17日(土) | 第25回コンサート「D. シュルマン＆鷲山かおりデュオコンサート」 |
| 3月11日(日) | 東日本大震災1周年復興祈念 歴史文化資料館「絆」コンサート |

### 公募による展示・催物一覧

| 日時・期間 | 内 容 |
|---|---|
| 6月21日(火) | 直心吟詩会「詩吟発表会」 |
| 7月 1日(金)～ 7月 8日(金) | 島本竹工房「七夕飾り」設置 |
| 8月20日(土) | 島本竹工房「第12回かぐや姫の夕べ」 ※雨天中止 |
| 10月12日(水) | 島本町婦人協会童謡グループ 「一緒に歌ってみませんか！」 |
| 11月23日(水) | 島本バンブークラブ<br>「スポーツステーション バンブースポーツゴミ拾い」 |
| 12月20日(火) | 島本第四小学校シャンテ、同第一幼稚園アンサンブルママン<br>「コーラスとハンドベルによるクリスマスジョイントコンサート」 |

## 入館団体　平成23年度（2011）

| | | |
|---|---|---|
| 4月23日 | 「人」大阪支社　阪の会 | 1団体 |
| 5月27日 | 歴史探訪の会s | 1団体 |
| 6月 3日 | 吹田市　町あるきの会 | |
| 6月11日 | 歴史探訪の会s | |
| 6月18日 | 緑懇会 | |
| 6月19日 | 宇治市歩こう会 | 4団体 |
| 7月17日 | 歴史探訪の会s | 1団体 |
| 9月10日 | きらりウォーク | |
| 9月25日 | 高槻市富田文化協会 | 2団体 |
| 10月 2日 | 洛西むかし昔の会 | |
| 10月 7日 | 島本町商工会女性部 | 2団体 |
| 11月2日 | 歴史探訪の会s | |
| 11月 3日 | 北大阪ミュージアムバスツアー | |
| 11月12日 | 紫式部顕彰会 | |
| 11月15日 | 大阪狭山ハイキングクラブ五悠会 | |
| 11月30日 | 京都スカイ大学ハイキンググループ | 5団体 |
| 12月18日 | コミュニティデザインツアーin大山崎＆島本町 | |
| 12月22日 | 歴史街道 | 2団体 |
| 1月12日 | 向日市歩く会 | |
| 1月20日 | 高齢者大学校古典文学科 | 2団体 |
| 2月 3日 | 町立第四小学校　3年生 | |
| 2月 4日 | 高槻阿武野コミュニティセンター | |
| 2月 7日 | 町立第三小学校　3年生 | |
| 2月 9日 | 町立第一小学校　3年生 | |
| 2月12日 | 西宮市旧跡探訪の会 | |
| 2月17日 | 町立第二小学校　3年生 | |
| 2月19日 | 大阪ミュージアム構想「OSAKA再発見！」 | |
| 2月24日 | 長岡京市埋蔵文化財センター | 8団体 |
| 3月15日 | 京都百人一首かるた研究会 | |
| 3月16日 | 吹田年金者組合 | |
| 3月16日 | 大阪市北区歩く会 | |
| 3月22日 | 歴史好きの集い | |
| 3月24日 | 歴史探訪の会s | |
| 3月27日 | 遊史の会 | 6団体 |

年間　34団体入館

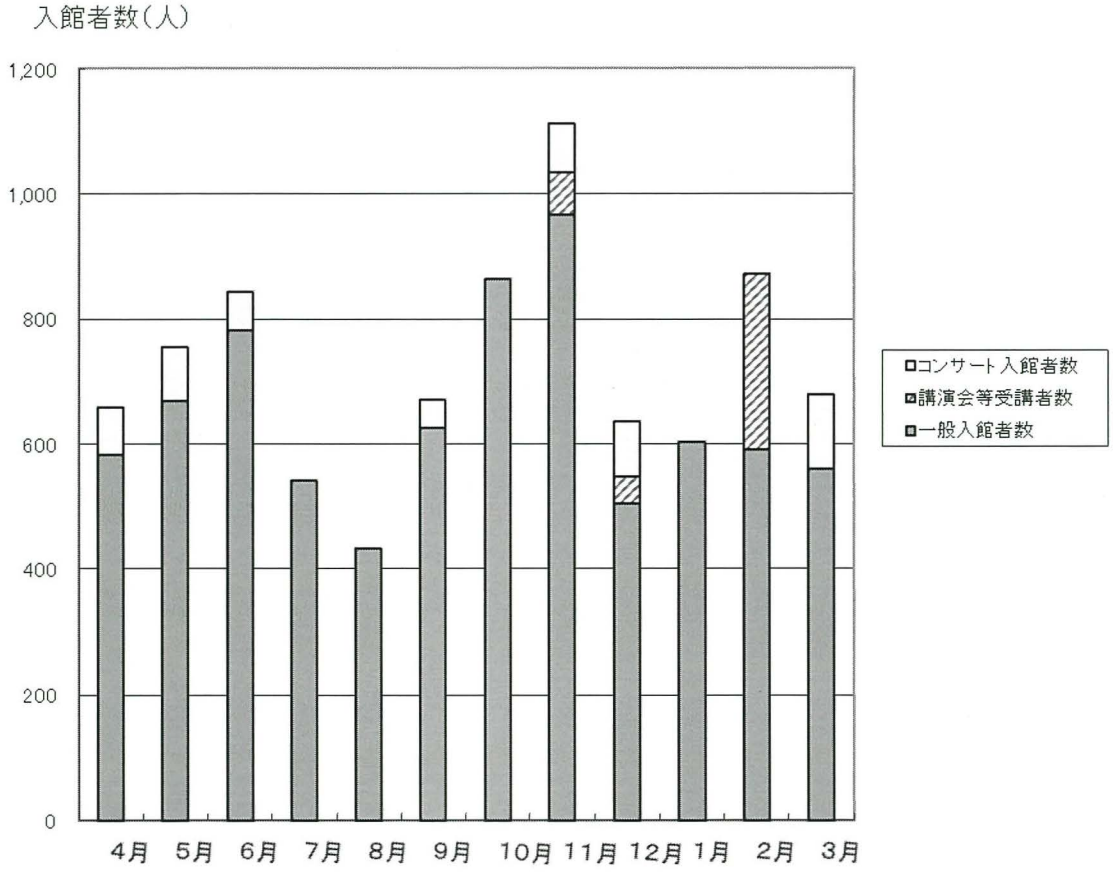
## 日誌抄録　平成23年度（2011）

| | |
|---|---|
| 4月 7日 | 資料館ボランティア定例会 |
| 4月22日 | 文化推進委員会　第1回 |
| 4月26日 | 町指定文化財<br>「宝城庵 薬師如来立像」・「将棊馬日記」速報展（～6/5日） |
| 4月30日 | 第21回コンサート<br>「吉久夏子＆古園恭美　ピアノ連弾の愉しみ」<br>ケーブルテレビ取材 |
| 5月12日 | 資料館ボランティア定例会 |
| 5月18日 | 島本町歴史文化資料館懇話会　第1回 |
| 5月22日 | 第22回コンサート<br>「tomoco. K　ピアノ弾き語りコンサート」<br>NHK大阪支局　取材 |
| 6月 2日 | 資料館ボランティア定例会 |
| 6月 7日 | 大冠高等学校　取材 |
| 6月12日 | 第23回コンサート<br>「川合亜美　ピアノリサイタル」 |
| 6月14日 | 資料館ボランティア定例会 |
| 6月21日 | 公募による発表　「直心吟詩会」 |
| 7月 1日 | 七夕飾り設置（～7/7） |
| 7月14日 | 文化推進委員会　第2回<br>資料館ボランティア定例会 |
| 7月27日 | ラジオ大阪　取材 |
| 8月10日 | 島本町歴史文化資料館懇話会　第2回 |
| 9月 1日 | 資料館ボランティア定例会 |
| 9月17日 | 第24回コンサート<br>「楽しい秋の名曲ラブリーコンサート」 |
| 9月28日 | ミニ企画展（～10/19）「島本の水をもとめて」 |
| 10月12日 | 公募による発表　「島本町婦人協会童謡グループ」 |
| 10月13日 | 資料館ボランティア定例会 |
| 10月22日 | 秋の企画展（～12/11）「水無瀬駒の時代を生きた人びと」 |
| 11月17日 | 文化推進委員会　第3回<br>資料館ボランティア定例会 |
| 11月19日 | 伝統文化に親しむ講演会　古典芸能「能楽を学ぶ」 |
| 11月26日 | 町指定文化財実物展示（～11/27）<br>「將棊馬日記」「水無瀬駒中将棋」<br>講演会「江戸時代の将棋駒」－高槻城三の丸跡の出土駒－<br>鐘ヶ江　一朗　氏<br>展示解説「将棊馬日記について」　正岡　義朗　氏 |
| 11月27日 | 中将棋教室（1回目） |
| 12月 1日 | 資料館ボランティア定例会 |
| 12月 4日 | 中将棋教室（2回目） |
| 12月 8日 | 消防設備点検 |
| 12月15日 | 島本町歴史文化資料館懇話会　第3回 |
| 12月17日 | 第25回コンサート<br>「D. シュルマン＆鷲山かおりデュオコンサート」 |
| 12月20日 | 公募による発表　「ハンドベル＆コーラスコンサート」 |
| 1月 4日 | 新春企画展（～1/29）「しまもとの郷土かるた」原画展 |
| 1月12日 | ケーブルテレビ撮影 |
| 1月13日 | 京都新聞　取材 |
| 2月 1日 | 農具・民具展（～3/4）「むかしのくらしと農家のしごと」展 |
| 2月15日 | 文化推進委員会　第4回 |
| 3月 8日 | 資料館ボランティア定例会 |
| 3月11日 | 東日本大震災1周年復興祈念　歴史文化資料館「絆」コンサート<br>・「ヴァイオリン独奏」 福井英里子　ピアノ伴奏　藤原和子<br>・「メゾソプラノ独唱」 藤井博子　ピアノ伴奏　疋田尊子<br>・「ピアノ&ボーカル&ギター&トーク」 tomoco. K ＆ 康成<br>・「ブルーグラス（アメリカ民謡）演奏」 ザ・サウスパーキング<br>ケーブルテレビ取材 |
| 3月21日 | 島本町歴史文化資料館懇話会　第4回 |

## 利用状況

平成 23 年度入館者数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一般入館者数 | 581 | 669 | 781 | 540 | 431 | 625 | 863 | 966 | 503 | 603 | 589 | 560 | 7,711 |
| 講演会等受講者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 67 | 44 | 0 | 283 | 0 | 394 |
| コンサート入館者数 | 77 | 85 | 61 | 0 | 0 | 45 | 0 | 78 | 89 | 0 | 0 | 118 | 553 |
| 総入館者数 | 658 | 754 | 842 | 540 | 431 | 670 | 863 | 1,111 | 636 | 603 | 872 | 678 | 8,658 |




## 寄託・寄贈

平成 23 年度は 292 点の寄託・寄贈をいただきました。ありがとうございました。

| 内　　容 | 点数 | 内　　容 | 点数 |
|---|---|---|---|
| 欄間・襖・庭石 | 4 点 | 地図など | 11 点 |
| 煙草盆・盆 | 2 点 | 折尺・そろばん・棹秤など | 4 点 |
| ランプ・ローソク立て・油さし | 3 点 | 鑑札・講札・印籠など | 7 点 |
| 笊・前挽鋸 | 2 点 | 伝承記録カセットテープ | 11 点 |
| 薬瓶・巻軸帯など | 63 点 | 書籍類 | 185 点 |

| | |
|---|---|
| 合計 | 292 点 |

## 受入れ図書

| 発行 | 刊行物名 |
|---|---|
| 朝倉市教育委員会 | 朝倉市文化財年報（平成20年度） |
| | 黒川院Ⅰ 福岡県朝倉市黒川所在中世黒川院関連遺跡群の調査 |
| | 上城原古墳群 福岡県朝倉市屋形原所在遺跡の調査 |
| | 平塚大願寺遺跡Ⅱ |
| | 朝倉市文化財年報（平成21年度） |
| | 旧田代家住宅 |
| | 朝倉市内遺跡等分布調査報告書 |
| 綾部市教育委員会 | 京都府 綾部市文化財調査報告 第38集 平成18年度以久田野古墳群発掘調査報告－以久田野24号墳・25号墳・26号墳・27号墳－ |
| 茨木市教育委員会 | 大阪府茨木市 平成22年度発掘調査概報－個人住宅建築に伴う発掘調査報告－ |
| 池上曽根史跡公園協会 | 池上曽根史跡公園協会平成21年度フォーラム講演録「匠の世界～伝統の技・現代の技～」 |
| | 平成22年度 池上曽根史跡公園協会要覧 |
| 池田市教育委員会 | 新修 池田市史 第4巻 現代編 |
| | 池田市埋蔵文化財発掘調査概報 2010年度 |
| 生駒市教育委員会 | 生駒市文化財調査報告書第30集 生駒市内遺跡 発掘調査概要報告書2010年度 |
| | 生駒市文化財調査報告書第31集 生駒古窯跡群資料集成2 生駒山北方窯跡 |
| 泉佐野市教育委員会 | 泉佐野市埋蔵文化財調査報告69 湊遺跡 09-8区の調査 |
| | 泉佐野市埋蔵文化財調査報告70 食野家邸宅跡09-1区の調査 |
| | 泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要第66号 森山遺跡10-3区の調査 |
| 歴史館いずみさの | 歴史通信いずみさの vol.23 |
| 泉大津市教育委員会 | 泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報30 |
| 泉大津市教育委員会/泉大津市立織編館 | おほつ研究 vol.8 |
| 泉大津市立織編館 | 泉大津の産業と文化－泉大津市立織編館ガイダンスブック－ |
| 和泉市/和泉市史編さん委員会 | 池田谷の歴史と開発 |
| 和泉市いずみの国歴史館/和泉市教育委員会 | 和泉市いずみの国歴史館要覧 平成22年度 |
| 和泉市教育委員会 | 和泉市埋蔵文化財発掘調査概報21 |
| | 史跡池上曽根遺跡保存整備事業報告書 史跡池上曽根遺跡 発掘調査報告書 1990～2000 史跡整備に伴う第1期発掘調査 |
| 和泉市史編さん委員会 | 和泉市史紀要第18集 和泉市旧町村役場公文書目録 |
| 財団法人 大阪府文化財センター | 吹田市 吹田操車場遺跡Ⅶ 吹田（信）基盤整備工事（貨物専用道路）に伴う吹田操車場遺跡発掘調査報告書 |
| | 東大阪市・八尾市 池島・福万寺遺跡12（福万寺Ⅱ期地区08－1調査区）一級河川恩智川治水緑地建設に伴う発掘調査報告書 |
| | 八尾市・東大阪市 池島・福万寺遺跡13（池島Ⅱ期地区08－2調査区）一級河川恩智川治水緑地建設に伴う発掘調査報告書 |
| | 東大阪市 瓜生堂遺跡4 岩田遺跡2 花屋敷遺跡3近畿日本鉄道奈良線連続立体交差化に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| | 寝屋川市所在 高宮遺跡 －遺物編－ 太秦遺跡、高宮遺跡、讃良郡条里遺跡 一般国道1号線バイパス（大阪北道路）・第二京阪道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| | 東大阪市・八尾市 池島・福万寺遺跡10（福万寺Ⅱ期地区07－1調査区）一級河川恩智川治水緑地建設に伴う発掘調査報告書 |
| | 松原市 大和川今池遺跡Ⅳ －都市計画道路大和川線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－ |

| 発行 | 刊行物名 |
|---|---|
| 財団法人 大阪府文化財センター | 東大阪市・八尾市 池島・福万寺遺跡11（池島Ⅱ期地区07－2調査区）一級河川恩智川治水緑地建設に伴う発掘調査報告書 |
| | 大阪文化財研究 第38-39号 |
| 大阪府立狭山池博物館 | 大阪府立狭山池博物館 研究報告7 |
| | 平成23年度特別展 古代狭山池と台地開発のはじまり |
| 大阪大学文学研究科考古学研究室 | 長尾山古墳第6次・第7次発掘調査概報 |
| 大阪大学埋蔵文化財調査委員会 | 大阪大学埋蔵文化財調査室 年報2 |
| 大阪府立近つ飛鳥博物館 | 博物館だより アスカディア・古墳の森 vol.34 |
| | 大阪府立近つ飛鳥博物館 館報14 |
| | 平成23年度春季特別展 倭人と文字の出会い |
| | 平成23年度冬季特別展 歴史発掘おおさか2011 －大阪府発掘調査最新情報－ |
| 大阪府教育委員会 | 大和川今池遺跡 |
| | 唐櫃山古墳 |
| | 高木遺跡 |
| | 鮎川・ミクリ遺跡 －都市計画道路富田奈佐原線整備事業に伴う発掘調査－ |
| | 府中遺跡－都市計画道路和泉中央線整備事業に伴う発掘調査－ |
| | 中野北遺跡Ⅱ－主要地方道美原太子線道路整備工事に伴う発掘調査－ |
| | 甲田南遺跡－一般国道（旧）170号線歩道設置工事に伴う発掘調査－ |
| | 芹生谷遺跡 |
| | 府中遺跡Ⅱ－都市計画道路和泉中央線整備事業に伴う調査－ |
| | 倉治遺跡－仮称枚方第二警察署庁舎建設に伴う調査－ |
| | 奥田井遺跡発掘調査概要Ⅰ |
| | 大阪府教育委員会文化財調査事務所年報 15 |
| 大阪府教育委員会文化財保護課/大阪府伝統文化保護団体連絡会 | 樹木 大阪府の天然記念物（植物）概要 |
| | 近代化の足跡 大阪府近代化遺産（建造物等）総合調査報告書概要 |
| 大阪府登録文化財所有者の会 | 登録文化財を活かす事業報告 学校教育における登録文化財の活用について |
| 大阪府立弥生文化博物館 | 豊饒をもたらす響き 銅鐸 |
| | 平成23年度 秋季特別展♂弥生文化のはじまり－土井ヶ浜遺跡と響灘周辺－ |
| 大山崎町歴史資料館 | 大山崎町歴史資料館 館報 第17号 2010 |
| 関西大学博物館 | 関西大学博物館彙報 阡陵 No.63 |
| 貝塚市教育委員会 | かいづか文化財だより テンプス45号-48号 |
| 柏原市教育委員会 | 鳥坂寺跡発掘調査報告書 |
| | 高井田横穴線刻壁画保存事業報告書Ⅱ －第3支群5号墳－ |
| 柏原市立歴史資料館 | 柏原市立歴史資料館だより ゴンドラ No.8 |
| | 柏原市立歴史資料館 館報 第23号－2010年度－ |
| | 柏原ぶどう物語 |
| | 赤馬伝説 |
| 交野市教育委員会 | 交野市埋蔵文化財調査報告2010-Ⅰ 平成22年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要 |
| | おりひめちゃんと学ぶ 交野の歴史 旧石器時代～現代資料編（交野四方山話） |
| 交野市教育委員会/財団法人交野市文化財事業団 | 発掘！発見！緑立つ道 ヤマト政権の生産基盤を掘る！講演記録集 |
| | 慈光寺 |
| | 石清水八幡宮放生会調査報告書 |
| 財団法人交野市 | 交野市 歴史散策マップ 星田地区 |
| 文化財事業団 | 交野市文化財だより 第21号 |
| かつらぎ町教育委員会 | 平成21年度 かつらぎ町埋蔵文化財調査年報 |
| 河南町教育委員会 | 河南町文化財調査報告 第3冊 大阪芸術大学グランド整備に伴う東山遺跡発掘調査報告書Ⅱ |

| 発行 | 刊行物名 |
|---|---|
| 河内長野市教育委員会 | 河内長野市指定史跡　烏帽子形城跡総合調査報告書 |
| 岸和田市/岸和田市教育委員会/朝日新聞社 | 岸和田市文化賞　第23回濱田青陵賞授賞式 |
| 岸和田市教育委員会 | 平成22年度発掘調査概要 |
| 京都橘大学文学部 | 京都橘大学　文化財調査報告　2010 田口山弥生時代遺跡・山科本願寺跡土塁・山越古墳群・鹿谷古墳群大市支群 |
| 京都市文化市民局 | 京都市内遺跡発掘調査報告　平成22年度 |
| | 京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成22年度 |
| | 京都市内遺跡試掘調査報告　平成22年度 |
| 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター | 京都府埋蔵文化財情報 第114号-第116号 |
| 近畿民俗叢書刊行会 | 大阪府の漁撈習俗とエビス神信仰 |
| 熊取町教育委員会 | 熊取町埋蔵文化財調査報告第53集 熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・ＸＸＶ |
| 堺市 | 重要文化財山口家住宅保存修理工事報告書 |
| | 第1回百舌鳥古墳群講演会記録集　百舌鳥野の幕開け－大王墓築造開始の謎に迫る－ |
| 堺こおどり保存会 | 国選択・大阪府指定無形民俗文化財上神谷のこおどり |
| 堺市教育委員会 | 百舌鳥古墳群の調査5 御廟山古墳(GBY-6)発掘調査報告書 |
| | 堺市埋蔵文化財調査概要報告第133冊-第136冊 |
| | 百舌鳥古墳群の調査4 |
| 滋賀県教育委員会事務局文化財保護課 | 近江水の宝マップ |
| 四条畷市教育委員会 | 一般国道163号（清滝生駒道路）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査　清滝街道発掘調査報告書－四条畷市大字下田原所在－ |
| | 歴史とみどりのまち　ふるさと四條畷 |
| 株式会社ジャパン通信情報センター | 文化財発掘出土情報　2011年3月号 |
| 吹田市教育委員会 | 平成22（2010）年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報吉志部瓦窯跡－出土瓦整理報告書－　図版編 |
| 吹田市建設緑化部/吹田市教育委員会 | 紫金山公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書2史跡吉志部瓦窯跡確認調査・整備概要報告 |
| 吹田市立博物館 | 万博市民展　千里から上海へ |
| | すいはく博物館だより　No.45 |
| | 吹田市立博物館　館報10 平成20年度（2008年度） |
| | 吹田市立博物館　館報11 平成21年度（2009年度） |
| | すいはく博物館だより　No.48 |
| 泉南市教育委員会 | 泉南市遺跡群発掘調査報告書ＸＸⅧ 泉南市文化財調査報告書　第51集 |
| 大東市立歴史民俗資料館 | 大東市立歴史民俗資料館 市民学芸員REPORT |
| 高石市教育委員会 | 高石市文化財調査概要2010-1 大園遺跡他の発掘調査概要 |
| 高槻市教育委員会 | 嶋上遺跡群35 |
| 高槻市教育委員会文化財課　埋蔵文化財調査センター | 安満遺跡　－平成22年度確認調査速報－ |
| 高槻市教育委員会文化財課/高槻市立しろあと歴史館 | 永井神社伝来　永井直清関連資料調査報告書 |
| 高槻市教育委員会/高槻市立今城塚古代歴史館 | 高槻市立今城塚古代歴史館　常設展示図録 |
| 高槻市立今城塚古代歴史館 | 今城塚古代歴史館開館記念特別展　三島と古代淀川水運Ⅰ-初期ヤマト王権から継体大王の登場まで- |
| 高槻市立今城塚古代歴史館 | 平成23年　秋季特別展　三島と古代淀川水運Ⅱ－今城塚古墳の時代－ |

| 発行 | 刊行物名 |
|---|---|
| 高槻市立今城塚古代歴史館 | 発掘された高槻－平成20・21・22年度発掘調査速報展－ |
| 高槻市立しろあと歴史館 | しろあとだより　第3号 |
| | 平成23年　しろあと歴史館秋季特別展 徳川三代と華ひらく富田－まちに息づく文化の世界－ |
| 田尻町教育委員会 | 田尻町内遺跡群発掘調査概要12 |
| 財団法人地域創造 | 文化政策幹部セミナー 文化・芸術を活かした地域づくり研修 平成21年度実施記録 |
| 帝塚山大学考古学研究所 | 帝塚山大学考古学研究所研究報告Ⅷ |
| | 帝塚山大学考古学研究所研究報告ＸⅢ |
| 帝塚山大学考古学研究所/附属博物館 | シンポジウム報告書　有間皇子を考える |
| 帝塚山大学附属博物館 | 帝塚山大学附属博物館報　Ⅵ |
| 財団法人伝統文化活性化国民協会 | 伝統文化　No.40 No.42 |
| 富田林市教育委員会 | 平成22年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書 |
| 豊中市教育委員会 | 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成23年度（2011年度） |
| | 曽根遺跡第1次発掘調査報告書 |
| 長岡京市教育委員会 | 長岡京市文化財調査報告書第58・59冊恵解山古墳　－第11次調査の概要－ |
| 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター | 埋蔵文化財ニュース 142-145 |
| 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 | 世界遺産年報 2012 No.17 |
| 国立民族学博物館 | 月刊みんぱく　2008年1月号 |
| 大阪府能勢町教育委員会 | 平成22年度　能勢町埋蔵文化財調査概要 |
| 阪南市教育委員会 | 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要ＸＸⅧ |
| | 大阪府阪南市自然田所在　向出遺跡評価検討委員会報告書 |
| 東大阪市教育委員会 | 東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告－平成22年度－ |
| | 東大阪市埋蔵文化財発掘調査概報-平成22年度-東大阪市指定文化財 春日神社本殿修理工事報告書 |
| 東大阪市立郷土博物館 | 平成23年度　特別展示 遺跡からみつかる絵・記号・文字 |
| 御影供映像記録制作実行委員会 | 天野山金剛寺 正御影供百味飲食奠供調査報告書 |
| 港区教育委員会 | 平成22年度 港区指定文化財 平成22年10月27日指定 港区埋蔵文化財調査年報8 —平成21年度の調査地— |
| 港区立港郷土資料館 | 研究紀要13　平成22年度 |
| | 港区立港郷土資料館へ行ってみよう！ 第8号 |
| | 資料館だより 第66号・第67号 |
| | 港郷土資料館館報-28-平成21年度版（2009年度版） |
| 八幡市教育委員会 | 石清水八幡宮境内調査報告書 |
| 財団法人　八尾市文化財調査研究会 | 平成22年度（財）八尾市文化財調査研究会事業報告 |
| 八尾市教育委員会 | 八尾市文化財調査報告65 平成22年度国庫補助事業八尾市内遺跡平成22年度発掘調査報告書 |
| | 平成22年度　文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業　出土品が語るやおの歴史遺産高安千塚 |
| | 八尾市文化財調査報告66 平成22年度国庫補助事業　高安古墳群　調査報告書－平成22年度　出土遺物整理調査－ |
| 八尾市教育委員会生涯学習部文化財課 | 八尾市文化財紀要16　高安千塚シンポジウム　記録集3 |
| 八尾市教育委員会/八尾市立埋蔵文化財調査センター | 八尾市立埋蔵文化財調査センター 平成22年度秋季企画展　展示案内 やおの旧石器時代と縄文時代 －八尾に海があったころのくらし－ |
| 八尾市立埋蔵文化財調査センター | 八尾 よろず考古通信　第4号 |

## 民具の寄贈を受けて

当資料館所蔵の民具は、島本町はもとより、高槻市、大山崎町の近隣よりもご寄贈いただいております。史料は多岐にわたります。

その中より今回は、特に多くの方に関心高く、愉しんでいただきました『昭和初期の薬看板』を紙面にてご紹介いたします。

平成 23 年度に「昭和の民家」を一般公開・現地説明会をさせていただき、西国街道沿いでの生活の様子をご紹介いたしました。店舗での内覧と趣きが異なりますが、木製看板の重みとともに時代を感じていただければと思います。

現代にも伝わる、薬の看板が多種に亘り、保管されていました。

資料館での展示中も、来館者の話題になりました。

## 町指定文化財一覧

島本町文化財保護条例が平成20年7月1日に施行されました。
文化財保護審議会委員にて審議いただき下記の文化財が指定されました。

### 平成21年度

| 島本町指定文化財　第1号 | |
|---|---|
| 名　　称 | 水無瀬駒　関連資料 |
| 指定日 | 平成21年4月14日 |
| 所有者 | 個人 |
| 所在地 | 広瀬三丁目 |
| 種　　類 | 有形文化財 |
| 種　　別 | 歴史資料 |
| 品　　目 | 小将棋（漆書・八十二才銘）<br>一揃　合計39枚 飛車が欠落<br>中将棋（墨書・八十六才銘）<br>一揃　合計91枚 歩兵が欠落<br>中将棋（漆書）残欠四枚<br>象戯圖　一巻<br>附 象戯圖　一巻 |
| 時　　代 | 安土桃山時代 |

### 平成22年度

| 島本町指定文化財　第2号 | |
|---|---|
| 名　　称 | 神像（伝 聖徳太子七歳像） |
| 指定日 | 平成22年4月5日 |
| 所有者 | 若山神社 |
| 所在地 | 字広瀬 |
| 種　　類 | 有形文化財 |
| 種　　別 | 美術工芸品(彫刻) |
| 員　　数 | 1躯 |
| 品質・形状 | ヒノキ材・一木造り・彫眼<br>彩色仕上げ |
| 法　　量 | 像高　35.8cm |
| 時　　代 | 平安時代後期 |

### 平成23年度

| 島本町指定文化財　第3号 | |
|---|---|
| 名　　称 | 薬師如来立像 |
| 指定日 | 平成23年4月1日 |
| 管理者 | 宝城庵 |
| 所在地 | 桜井三丁目 |
| 種　　類 | 有形文化財 |
| 種　　別 | 美術工芸品（彫刻） |
| 員　　数 | 1躯 |
| 品質・形状 | ヒノキ材・一木造り・彫眼<br>彩色仕上げ |
| 法　　量 | 像高　96.5cm |
| 時　　代 | 平安時代後期 |

薬師如来立像

| 島本町指定文化財　第1号　追加 | |
|---|---|
| 名　　称 | 将棊馬日記 |
| 指定日 | 平成23年4月1日 |
| 所有者 | 水無瀬神宮 |
| 所在地 | 広瀬三丁目 |
| 種　　類 | 有形文化財 |
| 種　　別 | 歴史資料 |
| 時　　代 | 17世紀初期 |

将棊馬日記

島本町立歴史文化資料館　館報 第4号
平成23年度版(2011)

発　行　島本町教育委員会
〒618-8570
大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号
TEL 075-961-5151
発行日　平成24年 8月
印　刷　三星商事印刷株式会社
〒604-0093
京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町300
TEL 075-256-0961